

内閣府インパクト評価検討WG
第1回委員会

社会的インパクト評価の求められる背景

伊藤 健(慶應義塾大学 大学院 政策・メディア研究科 特任助教)
ken85306@gmail.com / itok@sfc.keio.ac.jp₁

伊藤健



- 米国Thunderbird Global School of Managementにて経営学修士課程を修了後、GE Internationalに入社。シックス・シグマ手法を使った業務改善や、コーポレート・ファイナンス部門で企業買収後の事業統合等を行う。勤務の傍ら、2005年よりソーシャルベンチャー・パートナーズ東京へパートナーとして参加、ソーシャルベンチャーの育成支援を行う
- 2008年にはGE社を退職、2010年までNPO法人ISL 社会イノベーションセンターの立ち上げと運営に関わる。主な仕事として、スイス・シュワブ財団と提携してのSocial Entrepreneur of the Year (SEOY)日本プログラムの運営等
- 2010年より 慶應義塾大学政策・メディア研究科 特任助教。主に社会的インパクト評価を中心に研究。「ソーシャル・ファイナンス」「ソーシャル・ビジネスの商品開発とプロモーション」等の授業を担当。
- Asian Venture Philanthropy Network日本アドバイザー、特定非営利活動法人SROIネットワークジャパン 代表理事

本WGにおける問題意識

- 「インパクト評価」については、自然科学の領域を中心に、“ある介入がどれだけの変化を生み出すか”という観点で様々な分析枠組みが研究・開発されている
- それに対して、社会政策の領域では、インフラ整備や国際開発の領域で費用便益分析やアウトカム評価の手法が整備され、政策評価についてもNPM等の取り組みがあるが、非営利組織評価等の領域においてはいまだ議論が端緒についたばかりと言える
- 日本だけではなく、グローバルでも英米等の先行事例はあるが、2008年の金融危機をきっかけに、急速に議論が進行しつつあり、いまだ確立した枠組みや手法はない
- 日本においても、少子高齢化が進行し、公的リソースの逼迫が想定される現状において、社会的生産性を最大化するために、社会的インパクト評価の手法についての考え方やあり方について整理をする必要がある
- 特に、対象を非営利組織に限定するのではなく、企業や行政組織の評価にも活用できるような枠組みが期待されている

社会的価値評価への期待と課題

社会的価値評価への期待

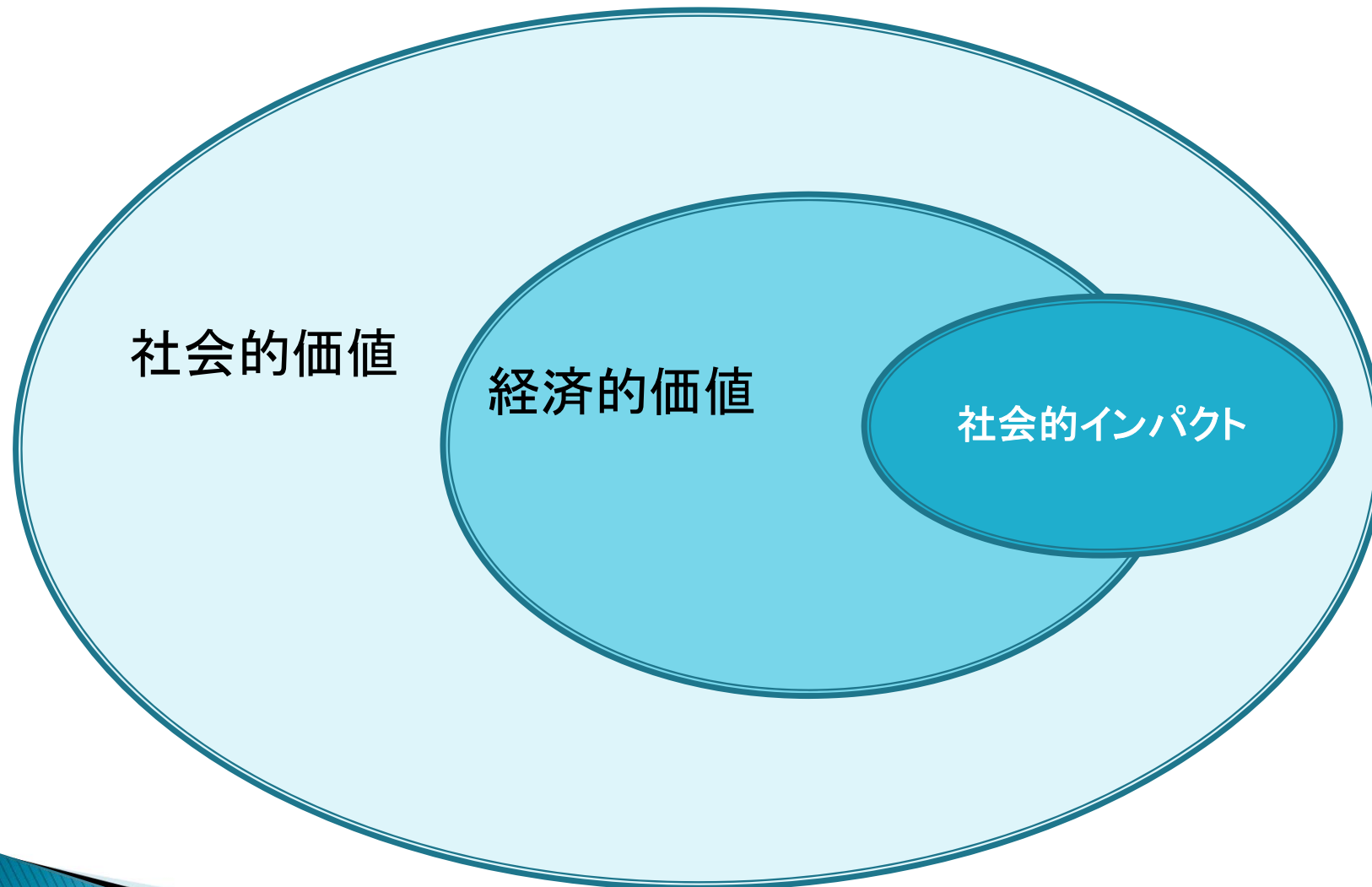
- ▶ 社会的活動に対して、財務的価値のみでは測れない活動の社会的価値を評価したい
- ▶ 異なる社会的活動に対して比較可能な評価を行い、そのプライオリティを判断したい
- ▶ 社会的活動に対して、その価値創出のプロセスを分析し、さらなる価値創造を深化させたい

社会的価値評価への課題

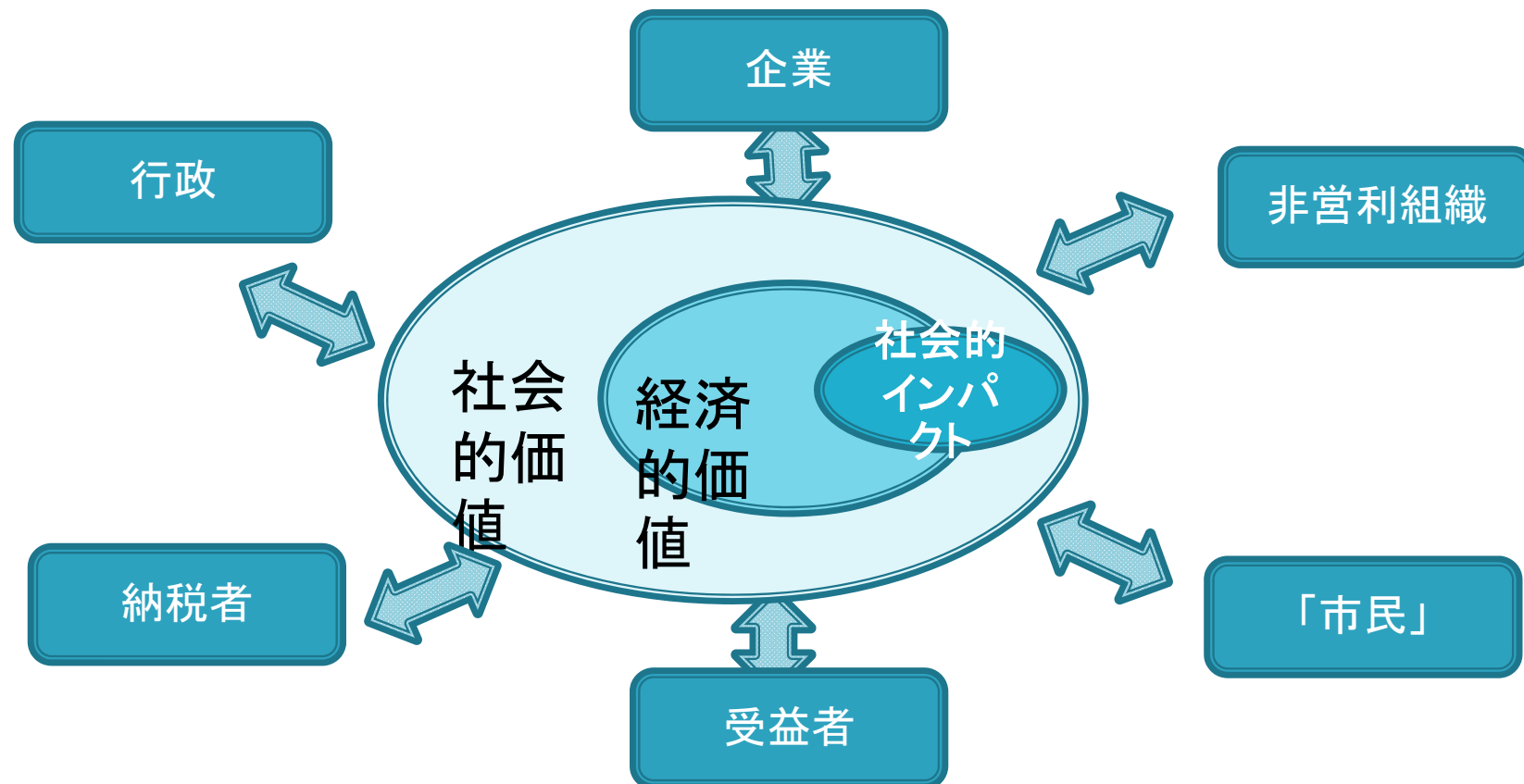
- ▶ 社会的活動から社会的価値に至るプロセスが複雑で、相関を示すことが困難
- ▶ 非財務的指標を、社会的価値へ変換する係数が確立されていない
- ▶ 異なるステークホルダー間での社会的価値の合意がない
- ▶ 異なる目的に対応する異なる手法が未確立

社会的価値評価へのニーズは高いが、その手法や運用については、
いまだ研究開発の途上にある

社会的価値と社会的インパクトの領域



異なるステークホルダーによる 社会的インパクトの認識



「社会的」価値といっても、ステークホルダーにとっての価値は異なり、「誰にとっての」価値なのかについての定義と合意が必要となる

社会的価値評価の目的の類型

異なる価値評価の目的によって、採用すべき価値評価の手法や運用は異なり、求められる手法の特性も異なってくる

類別	目的	手法に求められるもの(例)
投資適格性審査 (Due Diligence)	投資判断のための社会的 価値の精査	比較可能性
助成・支援先組織のマネジメント (Portfolio Mgmt)	既存の投資先・支援先の パフォーマンス評価	時系列でのデータや手法の一 貫性
助成・支援先組織の経営能 力強化 (Capacity Building)	投資先・支援先の経営能 力強化	社会的価値創出プロセスの分 析
社会的価値コミュニケーション (Value Communication)	対内・対外的な社会的価値 のコミュニケーション	アカウンタビリティ、理解しやす さ
セクター開発 (Sector Development)	セクター開発のための指標 づくり	対象の網羅性、ベンチマーク可 能なデータ開発
経営判断指標の作成 (Decision / Strategy Making)	組織内の経営判断・戦略 構築のための材料提供	組織ミッションに基づいた価値 評価体系

(参考)社会的価値評価の200以上の手法やツールを集めた「TRASI」データベース(米国Foundation Centerによる)



Home Profile Search Site Map Ask Us
About Us Locations Newsletters Press Room PND

Get Started Find Funders Gain Knowledge View Events Shop

Tools and Resources for Assessing Social Impact



FIND TOOLS TO ASSESS
YOUR ORGANIZATION'S IMPACT.



FIND A TOOL

Find ready-to-use tools and learn what leading nonprofits, foundations, and others are using to measure their impact.

GO >

E.g., survey, logic model, microfinance

MEASURE
THE EFFECTIVENESS
OF YOUR PROGRAMS.



WHY ASSESS YOUR IMPACT?



CONNECT WITH PEERS
TO LEARN WHAT WORKS.



JOIN THE COMMUNITY

Connect with a network of peers and experts engaged in assessment.

Join Community >

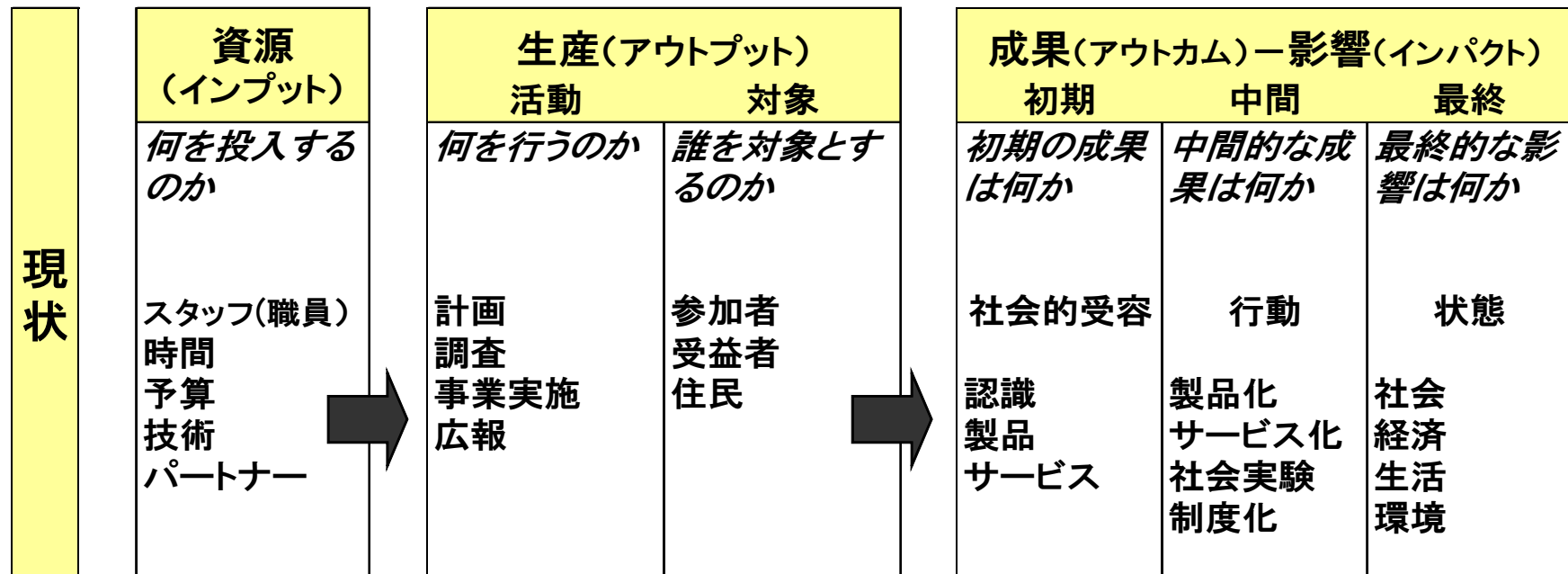
主な社会的価値評価手法

手法	発祥	特徴	主なユーザー	実装状況と課題
SROI	米国REDFにより1990年代から開発。欧州にて2000年代に普及。	アウトカムの貨幣価値換算による投資対効果評価	非営利組織・財団・企業	【状況】世界20数カ国に1000程度の組織が利用している。2009-11には英国内閣府が標準化支援。官民連携の社会投資スキームSocial Impact Bond等のロジックにもなり、英・米・豪にて実装されている。 【課題】プロキシや実施プロセスの標準化、分析の質的担保等に課題がある。
IRIS	2008年にロックフェラー財団、アキュメン・ファンド、B Labの3者により開発。現在はGIINが運用。	アウトプット・レベルでのKPI評価	開発援助分野の非営利組織・援助機関	【状況】マイクロファイナンスを中心に世界2400の投資機関により利用されており、英国・シンガポール・南ア等での社会的証券取引所には報告基準として採用されている。 【課題】アウトプット評価なので同領域での比較可能性は高いが、クロスセクターの比較ができず、投資対効果も測れない。
GIIRs	B Corpが2010年に開発・運用開始。	スコアリングによる社会性認定制度	社会的投資ファンド、社会的企業	【状況】設立当初は20の財団や投資銀行、43のファンドにより支援を受け、2012年第2四半期までに、企業416社、ファンド60本が評価を受けて、報告書が発行された。 【課題】認定制度のため、自己評価はできず、普及に課題がある。

社会的インパクトの手法は評価対象・運用主体・利用目的により、異なる複数の手法が並行して存在し、それぞれに特徴と課題がある。

アウトプット評価からアウトカム評価へのフォーカス

どのような資源を投入することにより(インプット)、どのような結果が生まれ(アウトプット)、最終的にどのような社会的成果(アウトカム)につながるか、ロジックモデルの枠組みで事業の社会的インパクトを分析できる。



先述の社会的価値評価の目的と運用にもとづいて、どのレベルでの社会的価値をどのように計るか、適切な判断が必要となる

社会的価値評価の取り組み

(1) Social Return on Investment (社会投資収益率、SROI)

The **SROI** Network
Accounting for Value

概要

- 1990年代後半から米国REDFによって開発。2003年時点でREDFによる運用は一旦停止するが、欧州で継続的に研究開発が進む。民間セクターにおける実践は限定的。SROI Network(英国、会員数約800名)等複数の組織によって実践・研究が行われている。
- 2008年から2011年の英国内閣府による標準化・ガイドライン整備のイニシアティブ「SROI Project」によって、ガイドラインの発行、データベース整備、パイロットプロジェクト等が実施される。
- Social Impact Bond等の官民連携のファイナンス・スキームや、Social Value Actのようなインパクト評価の法制化への動きの基礎を形成した。

特徴と課題

- 社会的活動に対して、アウトカムレベルで金銭価値換算での定量評価を行う。
- ステークホルダー関与による参加型評価。社会的価値の共有の媒介としての定量評価としての位置づけ。
- 事後評価だけではなく、「予測型」のアセスメント運用により、評価実施に向けたガイドラインの設定を行い、評価型の運用の有効性を担保するダイナミックな運用指針。
- 課題としては、財務プロキシの未整備、ステークホルダー関与によるコンセンサス型の“客観性”の担保、ベンチマークの困難等がある

SROIの特徴

- ▶ 社会的活動に対して、財務的評価のみでは測れない活動の社会的価値を定量的に評価するための理論的枠組み
- ▶ SROIの指標は、社会的インパクトは、投入する単位リソースあたりでのアウトプットの比率で表される（例えば、3:1であれば1の投入に対して3の社会的アウトプットがあることを示す）
- ▶ SROIにおいては、事業の社会的効率性を示すことだけが目的ではなく、その算出のプロセスにおいて、異なるステークホルダー間において、社会的価値そのものを測る基準についての共有できる議論の基礎を形成することが最大の効用である
- ▶ ビジネスプランが財務予測以外の多くの情報を含むように、SROIは経営判断やベンチマークを行なうための財務的、非財務的両方の情報を含む

SROI Impact Mapの例

SROI ReportはImpact Mapとナラティブ部分の報告書から構成される。

Social Return on Investment - インパクトマップ																							
Stage 1		Stage 2			Stage 3							Stage 4				Stage 5							
ステークホルダー	意図した/意図外の変化 Intended/unintended changes	インプット Inputs	アウトプット Outputs	アウトカム(どのような変化が発生したか) The Outcomes (what changes)							Deadweight %	Attribution %	Drop off %	Impact	ソーシャル・リターン Calculating Social Return								
活動によって影響のされるステークホルダー 活動に対して影響を与えるステークホルダー Who will we have an effect on? Who will have an effect on us?	どのような変化があるか? What do we think will change for them?	そのステークホルダーがもたらすインプット What will they invest?	価値(ポンド) Value (Pound)	計量可能な活動結果 Summary of activity in numbers	概要 Description	インディケーター Indicator	情報ソース Source	数量 Quantity	期間 Duration	財務プロキシ Financial Proxy	変化の価値 Value (Yen)	情報ソース Source	どちらにしても発生した活動 What would have happened without the activity?	貢献割合 Who else would contribute to the change?	1年あたり低減する割合 Will the outcome drop off in future years?	インパクト Quantity times financial proxy, less deadweight, displacement and attribution	割引率 Discount rate						
					どのような変化が発生したか what changes? (based on how stakeholders would describe the change)	どのように測定可能か How would we measure it?	どのようにして情報を入手したか Where did we get the information from?	どれだけの 変化があるか How much change will there be?	何年間 続するか How long will it last?	財務プロキシ What proxy did we use to value the change?	変化の価値 (ポンド) What is the value of the change?	Where did we get the information from?					Year 1 (after activity)	Year 2	Year 3	Year 4	Year 5		
サービス利用者	医療サービスのコスト減少	サービス利用時間	£0.00	昼食会への参加	外出の増加による健康状態の改善	転倒等による入院の減少	アンケートとインタビュー	7	1	受診費用	£84.00		0%	5%	50%	£625.10	£625.10	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	
							アンケートとインタビュー	7	1	診断・治療費用	£4,964.00		0%	10%	10%	£31,273.20	£31,273.20	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	
							アンケート	7	1	入院費用	£7,220.00		0%	35%	0%	£32,851.00	£32,851.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	
						その他の病院での受診の減少	アンケート	90	5	受診費用	£19.00		0%	0%	0%	£1,710.00	£1,710.00	£1,710.00	£1,710.00	£1,710.00	£1,710.00	£1,710.00	
	外出機会の増加				地域の高齢者におけるコミュニケーションの活発化	高齢者の精神衛生の改善	アンケート	16	1	同様なコミュニケーションサービスの市場価格(老人クラブ年会費)	£48.25		0%	0%	0%	£772.00	£772.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	
	栄養状態の増加による健康改善				栄養状態の改善	保健指導員の活動の減少	アンケート	14	2	保健指導員訪問にかかるコスト	£34.00		0%	0%	0%	£476.00	£476.00	£476.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00
自治体	プログラムコストの支出	NPO団体への外部委託	£24,375.00										0%	0%	0%	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	
NPO団体のボランティア	健康な高齢者を対象にしたボランティアの募集	4名X3時間X5日間X50週間X6ポンド	£18,000.00		ボランティアの健康状態の改善			4	1	(同様な運動量を想定した)スポーツクラブ年会費	£162.00		70%	10%	35%	£174.96	£174.96	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	
													0%	0%	0%	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	£0.00	
Total			£42,375.00														£67,882.26	£67,882.26	£2,186.00	£1,710.00	£1,710.00	£1,710.00	£1,710.00
																		£65,586.72	£2,040.65	£1,542.32	£1,490.17	£1,439.77	
																						£72,099.64	
																						£29,724.66	
																						£1	

社会的価値評価の取り組み

(2) Impact Reporting and Investment Standard (IRIS)



概要

- 2008年にロックフェラー財団、アキュメン・ファンド、B Labの3者によって開発された社会的投資のためのレポートング基準。現在の母体はGlobal Impact Investing Network(GIIN、本部NY)。
- 財務面でのレポートング以外に、農業、マイクロファイナンス、エネルギー、保健、教育、住宅等の8つの分野にカスタマイズした非財務の報告項目を定義、受益者数、リソース効率等の標準化されたレポートングの確立を目指す。
- インパクト・インベスティングやマイクロファイナンスのパフォーマンス評価基準として普及が進む。

特徴と課題

- 社会的活動に対して、アウトプットレベルでのレポートング基準の標準化を意図する。
- Asia IIX等、主に途上国に対するインパクト投資や、社会的証券取引所の上場基準として採用。
- Microfinance Information Exchange(MIX)やアキュメン・ファンドのPulse等とのデータ互換性を確保し、2011年時点でグローバルで58カ国、2400ユーザー(*)がいるが、そのほとんどがマイクロファイナンス機関
- 社会的投資のための制度的インフラとしての今後の役割が期待される
- 課題としては、あくまで客観評価の可能な指標のみを対象とするため、アウトカム・レベルでの社会的インパクトについては必ずしも分析の対象にならないということが挙げられる。

IRIS基準に基づいた報告書の例 (Product Impact 部分、マイクロファイナンス事業の例)

Product Impact						
	Microenter prise Credit	Household Financing	Voluntary Deposit Accounts	Livestock Insurance	Life Insurance	Organizatio n Total
Loan Portfolio Outstanding- Value of Investments	43,400,000	3,880,000				47,280,000
Total Voluntary Savings Accounts			129,653			129,653
Total Value of Voluntary Savings Accounts			8,300,000			8,300,000
Client Individuals	90,219	21,254	129,653	251	721	129,802
Clients Individuals: Female	62,156	20,852	96,312	189	425	96,414
Client Individuals: Very Poor						19,470
Clients Individuals: Poor						97,352
Client Individuals: Rural						77,881
Client Individuals: Urban						51,921
New Client Individuals	17,845	12,125	45,826	251	524	45,976
Loan Insurance- Number of Clients	87,158	423				1800
Communities Served	173	173	173	12	34	173
Effective Interest Rate	40.50%	45%				
Client Retention Rate						74%
Group-based Training						21,521
Technical Assistance						1,526
Active Borrowers per Loan Officer						452

実際の報告書は以下の5つのセクションから構成される。

Organization Description
Product Description
Financial Performance
Operational Impact
Product Impact

社会的価値評価の取り組み

(3) Global Impact Investing Rating System (GIIRs)



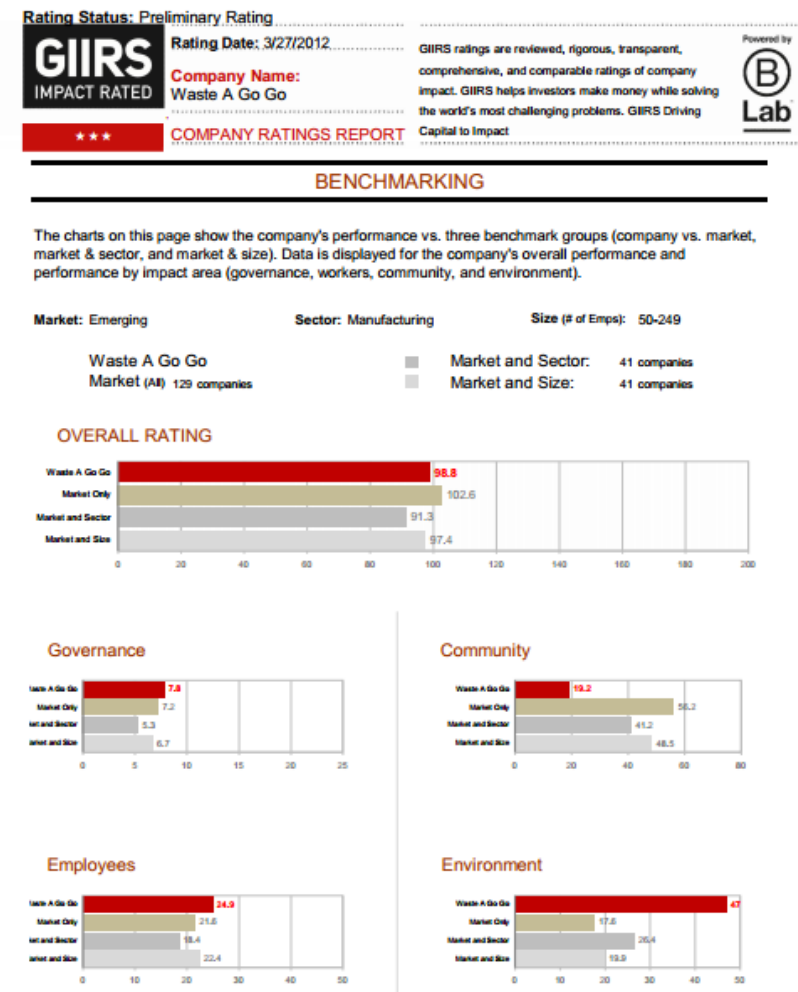
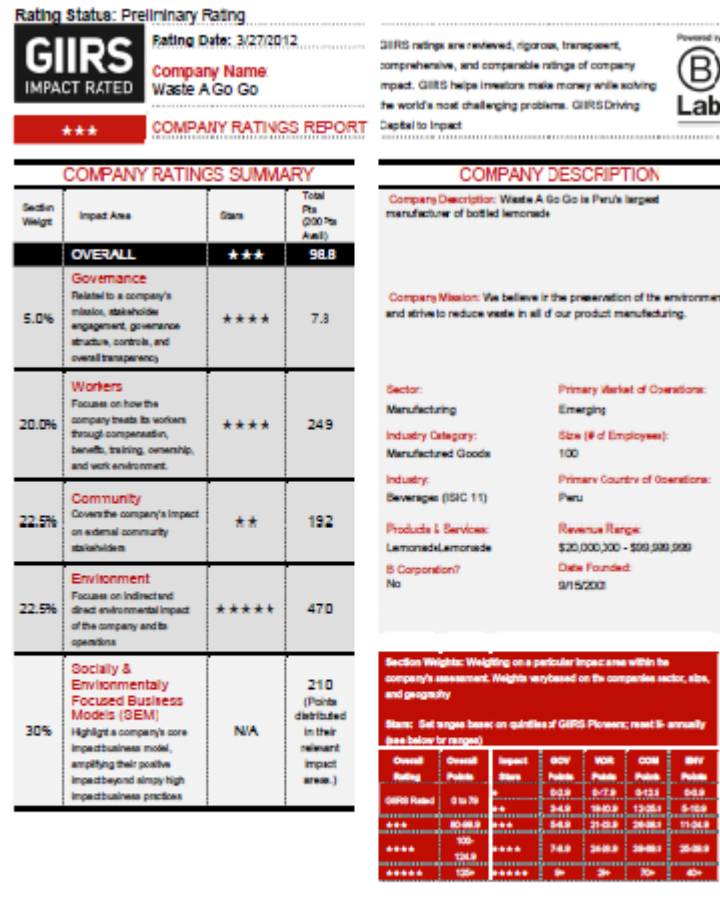
概要

- 社会的投資を促進することを目的に、投資先の社会性を評価するレーティング組織として2010年に設立。設立当初は20の財団や投資銀行、43のファンドにより支援を受けた。
- 企業とファンドを対象にして、その社会性をガバナンス、従業員、コミュニティ、環境、社会・環境ビジネスモデルの5項目において合計200点満点で評価、星1つから5つでのレーティングを行う。
- 非営利組織は対象外。2012年第2四半期までに、企業416社、ファンド60本が評価を受けて、報告書が発行された。

特徴と課題

- 電話インタビュー、文書レビュー、サイト・ビジット、バックグラウンド・チェック等によってレーティングを実施。費用は企業の規模によって、初年度\$2,500から\$15,000、翌年度以降は\$1,000から\$2,000。
- スコアリング・システムによりセクター内でのポジションが明確にわかるほか、継続しての評価を受けることにより社会的インパクトの改善への示唆を得ることができる。
- 母体となっているB Labは、この他にB Corporationという認定制度を運営しており、これまでに600社以上がB Corpとしての認定を受けた。GIIRSが投資家向けのレポートを発行する評価なのに対して、B Corpは全てのステークホルダー向けに「認定」を行うという差異がある。

GIIRS Impact Rating報告書の例



The material in this ratings report is informational only, and not an offer or recommendation to buy or sell a security or other financial instrument or to participate in any particular strategy. GIIRS is not a financial advisor and does not provide any advice or recommendations. GIIRS is not a financial institution and does not provide any financial services. GIIRS is not a financial institution and does not provide any financial services. GIIRS is not a financial institution and does not provide any financial services.

© Copyright 2012 GIIRS

G8インパクト投資タスクフォース(2013-2015)

国別諮問委員会



定期的な会合を開催、事務局に各国からの政策提言レポートを提出、レポート発行後も同提言を推進する



- 政府機関、民間代表からなる各国代表により組織
- 2014年9月までに議論を重ね、政策提言レポートの作成・提出を行う

OECD Report

Over two years, the OECD will undertake a report mapping global sector and expected developments

インパクト評価 Working Group

The working group will bring together leaders in impact measurement from G8 and beyond to recommend approach and principles for measurement of social outcomes

国際開発 Working Group

The working group will include representatives from world's key DFIs and impact investors to recommend approach and principles for applications in development

アセット・ アロケーション Working Group

Composition of working group to be confirmed at first Taskforce meeting. Objective is to recommend approach and principles needed to achieve specific allocation to impact investment by institutional investors

ミッション・ アラインメント Working Group

Composition of working group to be confirmed at first Taskforce meeting. Objective is to recommend corporate form that provides mission-lock for profit-with-purpose businesses

G8 社会的インパクト投資タスクフォース

Impact Measurement Working Groupの概要

(1) 目的

- インパクト投資を促進するための社会的インパクト評価についてのガイドライン形成について検討し、必要なリソースや将来像、ロードマップを提供すること

(2) 議題

1. 既存の社会性評価ガイドラインの検討
2. 社会性評価「7つのガイドライン」の提言の作成
3. ガイドライン実装のケーススタディ
4. ガイドライン実装の必要条件の整理

(3) 提言する政策

- 下記ガイドラインと実装の必要条件に基づく、ステークホルダー別のアクション・プランを提示した
 - Goal Setting
 - Framework Development
 - Data Collection & Storage
 - Validation
 - Data Analysis
 - Data Reporting
 - Data-Driven Management